

ほつぷす つぷす ふふ



2012年版 第2号

塾長コラム

あんぱんち

第二十五回

ゴールデンウィークが終わりました。子どもたちは、今年のGWでは、どんな経験を積み、どんな思い出を作ることができたのでしょうか。私は、相変わらず、ドラゴンズの応援です。ナゴヤドーム、横浜スタジアム、岐阜長良川球場と球場めぐりです。塾の子どもたちからも、そんなお話をたっぷり聞けることを楽しみに今号のあんぱんちを書いていきます。

さて、少子化の時代です。大学や専門学校においては、新学期が始まり入学式が終わると、早速4月には次年度の学生を集めるための活動が始まるようです。その一つとして、新聞に「大学案内・パンフレット送ります！」などといった全面広告が掲載されます。この4月から5月にかけての新聞でも、何回かそういった広告が載っていました。それらを見ていて、気になったことがあります。

高校3年生を対象にするいわゆる大学・専門学校の宣伝広告には、2種類のタイプがあるようです。ひとつは、学校ごとに学校情報が並んでいて、それを見て資料請求をしてくださいというタイプです。学校ごとに学校情報を並べたものです。もうひとつは、「学科逆引き辞典」といって、どの学科がどの大学に設置されているのかを分かりやすくするため、学科別に学校を並べたタイプです。なぜ2種類あるのでしょうか。生徒の大学選びの基準によって、どちらのタイプが便利なのか変わってくるか

らでしょう。大学や専門学校で勉強したいと思う学問を見つければ、その研究ができる学科や学部を探せば、後者のタイプが便利ははずです。いわゆる大学名のブランド神話が崩れた今では、自分が何を学びたいのかを考えて、進学先を選ぶ生徒がいるということでしょう。ここで、私が気になったことは、高校3年生の春の段階で、大学や専門学校で勉強したいと思う学問が定まっているのかという点です。例えば、一口に「文学部」といっても、「人文学、国文学、英米語、仏語、独語、中国語」と多岐に渡ります。「教育学部」にも、「教員養成、児童心理学、教育社会学、…」と数多くの学科が存在します。学校によっても違いますが、入試の段階で入学したい学科まで選択しておく必要があります。つまり、高校3年の春を目安に、大学や専門学校でどんな学問を学び、何を研究したいのかをつかんでおく必要があると言えます。

高校1・2年生の段階で文系か理系かの選択を求められますが、数学が得意か苦手かといった場当たり的な判断ではなく、その先で何を学びたいかをよく見極め、その学問が理系か文系のどちらに属しているのかで、文・理の判断をすることを期待します。遠い話のように聞こえるかもしれませんが、現在の中学生の皆さんには、そろそろどんな学問があるのか興味を持ってほしいなと思います。

これまで、この『ほつぷすつぷす』でも、子どもたちに先々を見据えてほしいと願いを込めたコーナーを連載してきました。一昨年の「職業ナビ」では、様々な職業の特長やどうやらその職に就けるのかをお伝えしてきました。現在の「ほくたち・わたしたちのハロワーク」では、今、取り組んでいる勉強と将来がどのようにつながっているのかを考えてもらっています（ぜひ、じっくり読ませてくださいね！）。今後も、こうした

自分の将来について考えるきっかけになればと思いがらこうしたコーナーを続ける予定です。子どもたちには、自分の15歳、18歳、20歳、22歳、25歳を考えながら、自分の生きる道を切り開いてほしいと期待します。保護者の皆様も、子どもたちが、目先のことにだけに振り回されるのではなく、節目ごとの自分の将来設計をすることの大切さをご理解いただき、そのきっかけになるようなお話しをしていただけたらいいなと思います。NHK教育テレビの「課外授業ようこそ先輩」や「テストの花道」などは、そんなお話しのかきつけとなる番組です。お勧めです。

塾長 西川 陽祐

今月の論語

子曰わく、恭にして礼なければ
すなわ 即ち勞す。慎にして礼なければ
すなわ 即ち蕙す。勇にして礼なければ
すなわ 即ち乱る。直にして礼なければ
すなわ 即ち絞す。

「恭にして礼なければ」とは、行動が礼儀にならなかつたらという意味です。そうしたらどうなるでしょう？ 「勞す」つまり、苦勞することになります。要するに、「他人に対して礼儀を払わなかつたら、自分の気持ちを相手に伝えることができませんよ」といっているのです。

次は「慎にして礼なければ即ち蕙す」です。行動は慎重だけれど、それが礼儀にならなかつたら、単なる臆病者に見られてしまう、といっています。

そして、「勇にして礼なければ即ち乱る」。勇敢な行動であっても礼儀にならなかつたら、単なる乱暴者と思われれるという意味です。

最後の「直にして礼なければ即ち絞す」。正直で真面目だけれど、相手に対する礼儀がなければ、冷酷な人間になっってしまうですよ、といっているのです。

まとめると、「恭、慎、勇、直」を、礼儀をもって養わなかつたら、必ず「勞、蕙、乱、絞」という悪い結果になってしまうというのです。

例えば、君たちなら、食事のときに口を開けてクチャクチャと囁む音をたてて食べない、勉強しているときにだらけた姿勢をとらないといったことが礼儀です。そういう礼儀をわきまえないと、「なんて礼儀知らずなんだ」と思われて、そのうち相手にされなくなってしまう。そう思われないうちに、しっかりと礼にならなう行動をしてもらいたいと思えます。

参考図書 瀬戸謙介『子供が喜ぶ「論語」(致知出版社)』

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール 29

食べ物を勧められたときには、ビュッフェ・スタイルのパーティやレストランであろうと、クラスでおやつをもらうときであろうと、正当な取りぶん以上には取ってはいけない。欲ばってたくさん取ることは絶対にやめよう。欲ばりはむだに通じるし、ほかの人の取りぶんが足りなくなるようなことになれば、その人たちに失礼だから。

ルール 30

学校にいるときも、校外学習に出かけたときも、だれかが何かを落としたりしたの気づいたら、拾ってその人に渡そう。落としたりした人のほうが近いところにいる、身をかがめて拾おうとするところを見せるのが礼儀だ。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

(ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社)より

「連絡メール」の

ご登録ありがとうございます！

4月末にご案内した「連絡メール」へのご登録いただき、ありがとうございます。天候不良などによる授業休講以外にも、配布物のご案内、各種テストやテスト対策のご案内などのお知らせを配信して参ります。まだ登録されていない方は、ぜひご登録願います。